音楽科

鏡　千佳子
共同研究者　西島　千尋（金沢大学）

１．はじめに

本校は，令和７年度より「創造的に問題解決を試みる生徒の育成－教科等の指導を基盤として－」をテーマに研究に取り組んでいる。これまでの学校研究の過程で新設した教科「創造デザイン科」においては「新たな価値を創造する資質・能力」の育成を目指した。そしてその中の一つである「イノベーターが有する態度」を各教科等でも育むことで，より一層創造的に問題解決を試みる生徒の育成ができるのではないかという仮説を立て，その中で音楽科ではどのように育むことができるのかを検証してきた。

「イノベーターが有する態度」としては，「ひとまずやってみる」「失敗して，前進する」などが挙げられている。音楽科の授業でこのような態度の育成に適しているのは，表現領域での実践であると考え，令和７年度は，音楽科の目標（学習指導要領平成 29 年告示：第１学年）に示されている，「創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱，器楽，創作の技能を身に付ける」ことに重点を置き，歌唱（合唱）での授業に特化して研究に取り組んだ。また，「イノベーターが有する態度」を育成するために本校が定めた７つの態度（Ａ主体的に取り組む態度，Ｂ自ら問題を見つけようとする態度，Ｃ新しいものを取り入れようとする態度，Ｄ批判的に物事を見ようとする態度，Ｅ他者と協働する態度，Ｆ失敗を恐れない態度，Ｇ計画を立てて実行する態度）より，「Ｃ新しいものを取り入れようとする態度」に重点を置き，生徒がこれまで取り組んできたことに新たなものを取り入れ，さらなる成長につなげられるよう，研究を進めた。

実践内容としては，「Ｃ新しいものを取り入れようとする態度」を育成していくために，教師からだけではなく，他学年，級友からの気付きやゲストティーチャーからの教えなども取り入れられるような場面を設定した。評価方法については，「新たなものを取り入れようとしたか」「今回は取り入れなかったが，今後取り入れたいと思ったか」「取り入れることでよりよくなると思うか」，などの振り返りや，記述式のアンケートを用いて，態度の育成を図れたかどうかを見取った。授業後に行ったアンケートでは，９割を超える生徒が「新たなものを取り入れた」と回答した。また，「今年はできなかったが，次回新たなものを取り入れてみようと思う」という回答も９割を超えたことから，本校の学校研究テーマである「創造的に問題解決を試みる生徒の育成」に寄与できたと考えられる。この実践から，さらに鑑賞領域でも「Ｃ新しいものを取り入れようとする態度」の育成ができないかと考え，今年度は鑑賞領域での実践を試みることとした。

２．育成を目指す態度

音楽科では，１．で示したとおり，「学校として育成を目指す７つの態度」より「Ｃ新しいものを取り入れようとする態度」の育成に重点を置いて研究を進めている。令和７年度の実践を受けて，鑑賞領域でも「イノベーターが有する態度」を育むことができるのではないかと考え，今年度も引き続き「Ｃ新しいものを取り入れようとする態度」の育成に取り組んでいくこととした。

生徒は普段あらゆるジャンルの音楽を耳にしている。タブレット端末等の普及により，簡単に音楽を聴くことができるようになった今，日本のみならず，世界の音楽が身近に感じられるようになっている。特に生徒がよく聴いているポピュラー音楽は，様々な音楽様式の融合により成立し，ま

た発展をしている。新たなものを取り入れて成立し，発展を遂げてきた音楽を授業で取り上げることで，「新しいものを取り入れる」ことへの期待や不安について考える機会とする。その活動が，「C新しいものを取り入れようとする態度」の育成に資すると考え，今回，鑑賞領域における育成を設定した。

３．指導の手立てや評価方法の検討

今回の授業実践では主にポピュラー音楽を取り上げる。ジャズやロックなどの音楽は，様々な音楽様式の融合により成立し，また発展をしている。しかし，多くの中学生はジャズやロックについて融合によりできた音楽だとは認識していない。そこでまず，ジャズ，ロック，ボサノヴァなどの音楽を鑑賞し，異なる文化をもつ人々が自文化以外の文化を取り入れるという歴史的・社会的事象や，他の音楽様式と融合により，新しい音楽が生まれ，発展できるということを学ぶ。次に，歌舞伎や能を取り上げ，それらも他の様々な音楽文化を取り入れているということを例として，「新しいものを取り入れる」ことについて考える機会を設ける。ただ単に新しいものを取り入れることを推奨するのではなく，新しいものを取り入れるということに付随するメリット・デメリットも考えた上で，「C新しいものを取り入れようとする態度」の育成につなげていきたい。評価方法については，「新たなものを取り入れようとしているか」「新たなものを取り入れることに対してあなたはどう思うか」など記述式の振り返りやアンケートを用いて態度が育成されたかを見取っていく。

４．参考文献

１）文部科学省：中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　音楽編

５．学習指導案

音楽科　学習指導案

日　時：令和８年１１月２１日（土）
指導者：鏡　千佳子
場　所：音楽室

１　題材名　　多様な音楽を味わおう

２　題材の目標

（１）我が国の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と，その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。

（２）音色，構成を知覚し，その働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに，生活や社会における音楽の意味や役割について考え，音楽のよさや美しさを味わって聴く。

（３）音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに，様々な音楽の多様性を認め尊重する態度を養う。

３　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・我が国の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と，その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。	・音色，構成を知覚し，その働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに，生活や社会における音楽の意味や役割について考え，音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

４　指導に当たって

（１）教材観

普段あまり馴染みのない雅楽と，中学生にとって身近なポピュラー音楽（ジャズ，サンバ，ボサ・ノヴァ，ロック）を取り上げる。音楽にはずっと形を変えずに続いてきたものと，新たなものを取り入れて成立し，発展を遂げてきた音楽がある。これらを授業で取り上げることで，「新しいものを取り入れる」ことへの期待や不安について考える機会としたい。

雅楽は 1200 年以上前に中国大陸から朝鮮半島を経て日本に伝えられた。現在日本で「雅楽」と称されているのは，奈良・平安時代に伝えられた音楽や舞，そして日本古来の舞楽などである。今回取り扱うのは雅楽の中の管絃「越天楽」である。この曲は神社に参拝した際や，テレビなどで一度は耳にしたことがあるのではないかと予想されるため，雅楽の中でも比較的生徒に耳馴染みがいいものではないかと考える。また，ずれやためなど，雅楽の特徴もつかみやすい楽曲である。

ジャズは，南北戦争の終戦により不要になり街に溢れた軍楽隊の吹奏楽器で，アフリカ系の人々が自分たちの音楽を奏でたことによって発生した。初期のデキシーランドジャズは，主旋律に即興的な対旋律が重なるポリフォニックな仕組みとなっている。ジャズでは，西洋の楽器である吹奏楽の楽器とアフリカ系の音楽形式が融合して成立したデキシーランドジャズを扱う。

ボサ・ノヴァは，アフリカ系の音楽と様々な音楽が融合してできたサンバが，欧州の音楽と融合して成立した音楽様式である。サンバよりゆっくりとした速度で，柔らかい音色でリズムを奏でる特徴を持ち，サンバとボサ・ノヴァの違いを，速度と音色という音楽の要素を基に考える。

ロックは，エレクトリックギター，エレクトリックベース，ドラムス，キーボードというバンド

で演奏される。このバンドという演奏形態を確立したのが，ビートルズである。ビートルズは，クラシック音楽との融合という新しいロックの形態を創りだした。例えば「Yesterday」では弦楽四重奏とギターを組み合わせ，「Hey Jude」では，弦楽器と金管楽器を導入した。ロックとクラシックという意外性のある融合により，新しい音楽を創造することの可能性について考えることができる。

このようにポピュラー音楽様式は，融合，つまりこれまでになかった様式を新たに取り入れることで成立し，また発展をしている。それぞれの音楽を学習することで，他の音楽様式と融合することで新しい音楽が生まれ，発展していることに気付かせることができると考える。

（2）生徒観・指導観

３年生はこれまで，１年時に民謡，２年時には歌舞伎，３年時には能，そして三年間通して箏の演奏や創作を通して日本の音楽を学んできた。同時に「魔王」や「交響曲第５番」，オペラなどといった諸外国の音楽も学んできた。本校の生徒は新たな発見をしたり知識を得たりすることに大変興味があり，普段の生活の中ではあまり耳にする機会のない音楽でも，どれも興味をもって取り組む姿が見られる。新たな知識を得ることで，これまでの学習とのつながりを感じ，学ぶことの楽しさにつながっているように思う。

今回取り上げるジャズやロックなどのポピュラー音楽は，中学生にとって身近なジャンルの音楽と言える。ポピュラー音楽は，様々な音楽様式の融合により成立し，また発展をしている。それぞれの音楽を鑑賞することで，異なる人々がそれぞれの文化を取り入れるという歴史的・社会的事象や，他の音楽様式と融合することで，新しい音楽が生まれ，発展できるということに気付いてほしい。また，歌舞伎や能も新たなものを取り入れている例を挙げ，「新しいものを取り入れる」ことに対して考えるきっかけとしたい。

５　指導と評価の計画

次	時	◆ねらい　○学習内容　・学習活動	評価の観点(評価方法) 知	思	態
1	1	○雅楽「越天楽」の特徴をつかむ ・これまでに学習した日本の音楽（民謡，歌舞伎，能）について振り返る。 ・「越天楽」を演奏している楽器の特徴を聴き取る。 ・演奏されている楽器を知る。 ・篳篥の唱歌をうたう。 ・ため，ずれなどの特徴をまとめる。 「越天楽」を視聴する。	知		↓
	2	○音色，構成を知覚し，その働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考える ・「越天楽」のオーケストラ版と雅楽版を聴き比べる。 ・雅楽で使われる楽器とオーケストラで使われる楽器それぞれの音色から感じ取れる雰囲気をクラスで共有する。 ・ずれやためなどの特徴から，日本の音楽のよさや魅力について考える。		思	
	1	○我が国の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と，その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。 ・ポピュラー音楽の成り立ちを知る。 (1) ジャズ (2) ボサ・ノヴァ	知		

2		(3)ロック ・日本の音楽の融合例を知る。 (4)超歌舞伎 ・新たなものを取り入れることに対して話し合う。			⇓

6　本時の学習（第２次中１時）

（１）目標

我が国の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と，その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。

（２）準備・資料等

ジャズ，サンバ，ボサ・ノヴァ，ロック，超歌舞伎の音源や映像資料，ワークシート

（３）展開

○学習内容　・学習活動	・指導上の留意点など　【評価規準】(評価方法)	時間
○我が国の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と，その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。	・前時までの学習を思い出し，ずっと変わらずに続いてきた音楽も新たなものを取り入れた歴史があることを伝える。→「越天楽今様」 ・「新たなものを取り入れる」ことについて考える時間とすることを伝える。	１０
・ジャズの成り立ちを知る。 ♪「聖者の行進」	・南北戦争終戦による吹奏楽器の普及とアフリカ系の音楽の融合によりジャズが成立したことを確認する。	２０
・ボサ・ノヴァの成り立ちを知る。 ♪「イパネマの娘」 ・ロックの成り立ちを知る。 ♪「We Will Rock you」 ♪「Yesterday」	・サンバの速度を遅くし，打楽器とギターの音色を変えるとボサ・ノヴァになることを音で確認する。 ・ロックを流し，使われている楽器に着目させる。 ・ビートルズがロックと融合した音楽様式を予想する。 ・融合することで発展していくことに気付かせる。 ・「人々はなぜ新たなものを取り入れようとするのか」について考える。	
・超歌舞伎について知る。	・歌舞伎とバーチャルの融合例を挙げる。 ・再度，「人々はなぜ新たなものを取り入れようとするのか」について考える。	１０
・新たなものを取り入れることに対して話し合う。	・「新たなものを取り入れる」ことに対して級友と話をした後，自分の考えをワークシートに書く。 【我が国の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と，その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。】(ワークシート)	１０